

～介護サービス拠点・内容の見直し～（生活福祉課）

組合員およびその家族ならびに地域住民が介護・支援を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で安心して日常生活を送ることが出来るように、7つの介護センターを拠点とし、居宅介護支援（ケアプラン作成）・訪問介護（ヘルパー派遣）・通所介護（デイサービス）・福祉用具の取り扱いにより、安全・安心な介護サービス提供に努め、利用者の在宅生活を支援しています。

事業継続に必要な有資格者の増大を図るとともに、介護保険制度改正等を踏まえて運営の効率化を図っていきます。

～介護従事者の育成～（生活福祉課）

介護サービス提供に必要な有資格者を確保するため、就労を目的とした介護職員初任者研修を開催し、介護従事者の育成を図っています。介護センター職員によるガイダンスの実施、介護現場実習の受入により、人材確保に向けてアプローチします。

介護職員初任者研修

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
受講計画	15 人	15 人	15 人	15 人
受講実績	20 人	15 人	6 人	—

⑧-⑳ JAのファンづくり、支店のコミュニティ拠点化

+

⑨-㉑ 食農教育・生活文化の充実による地域密着

～ふれあい農園～（営農支援課・広報課）

当JAでは支店ごとに、職員と組合員・利用者がふれあえる「ふれあい農園」を設置し、ふれあい活動として近隣の園児や児童向けに、食農教育活動の一環として講習会や勉強会を実施しています。サツマイモなどの栽培体験を通じて、「農」に対する理解醸成を図っています。

あわせて、JA職員自らが農園で農作物を栽培して、農業に対する苦労や収穫時の喜び等を体験しています。生産者との共感力を醸成することで、農業に関するコミュニケーションの増加にも努めています。今後も、当JAが特産化を目指す農産物など様々な品目に挑戦していきます。

～貸し農園～（営農支援課）

農業者以外の方が野菜や花を栽培して、自然とふれあうとともに農業者への理解を深めることを目的に、貸し農園を開設しています。「旬彩ファーム高浜」は全12区画で、1区画あたりは24㎡となっています。井戸や物置場を設置し、農具なども一部無料で使用することができます。また、平成29年4月には「旬彩ファーム姫路灘」を開園し、こちらは全19区画で、1区画あたり24.75㎡となっています。

～ふれあい訪問～（広報課）

組合員・利用者の皆さまに直接お会いし、JAへの意見などがう「ふれあい訪問」を実施しています。このコミュニケーション活動を通じて集めた貴重な意見やニーズを、各種事業展開に反映しています。

また、ふれあい訪問にあわせ、各支店で独自に「支店ニュース」を発行し、より地域に密着した身近な情報をお届けしています。今後、「支店ニュース」のさらなる内容充実と訪問率を上げることで、組合員・地域とJAとの「絆」を育んでいきます。

ふれあい訪問

（単位：戸）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
訪問対象先	113,143	113,406	113,042
訪問実績 （各月平均）	94,973	89,586	91,722

※ 訪問対象先は、支店単位で組合員戸数か広報誌配布部数のいずれが多い方を採用

～総合行催～【ふれあい農産物フェア】（広報課）

大規模なイベントではなく、職員の手作りによる1～数支店規模でのふれあい農産物フェアを実施することで、職員と組合員・利用者とのふれあえる場づくりを展開しています。取り組みの進む地区では組合員の積極的な参画も見られ、地域の活性化に資する活動として今後も活動を強化していきます。

地域の組合員・利用者の方々に日頃の感謝を表すことを目的に、農業面では秋の収穫時期を中心に農産物品評会を開催し、優秀な農産物を栽培された生産者を表彰することで、農業に対する意欲の喚起や農業振興を図っています。生活文化面では、女性会で活動する教室などの発表の場として提供しています。今後は高齢化社会・人口減少が進展していく中で、地域活性化を目的として、高齢者と若年世代が共にJAに対してより親しみを感じていただくことのできるイベント内容を展開します。

総合行催開催会場数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計画	22	21	20
実績	22	22	20

～食農教育活動～（生活福祉課・広報課）

各支店のふれあい農園や農産物直売所『旬彩蔵』等で次代を担う地元児童を対象に食農教育活動を実施し、大地の恵みである農産物のありがたさ、生産農家の苦労、だからこそ感謝して好き嫌いせずに食べることの大事さ等を知ってもらう食農教育活動を展開しています。

また、これら活動に生産者である組合員の参画を促し、職員の運営だけでなく組合員参画のもとで活動が展開され、将来的には准組合員・地域住民の参画へと繋げていきます。

児童に農業への興味や魅力を感じてもらおうと同時に、安全・安心な農産物への関心を持つことによる食に対する健全な育成を目指し、作物の定植から収穫までの体験を味わうことや、紙芝居やクイズによる“楽しみながら学ぶ”食育活動を展開しています。今後は児童の親世代の参画を目指し、ふれあいの強化を図ります。

食農活動実施回数

（単位：回）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
植え付け体験	38	54	61
収穫体験	86	93	98
農産物フェア	22	22	20
食農教育	119	114	140

～JAグループ広報活動～（広報課）

- ・JAグループが農業に根ざした組織であることを正しく伝えるため、県産農畜産物の魅力やJAグループ兵庫の取り組みなどを紹介する「JAチャンネル兵庫」をJA全農兵庫が開設し、JR元町駅にあるLEDビジョンとJR姫路駅中央改札口のデジタルサイネージ（電子看板）で放映しています。

放映内容	兵庫県産農畜産物の魅力や、JAおよび連合会の取り組み
場所・時間	JR元町駅 東改札口 (7:00～23:00) JR姫路駅 中央改札口 (4:30～25:30)



「JAチャンネル兵庫」(JR元町駅東口)



「JAチャンネル兵庫」(JR姫路駅中央改札口)

⑥-⑫ 組合員・利用者との結びつき強化

総務部・営農販売部

～組合員加入促進運動の展開～（総務課）

JAグループの掲げる自己改革として、農業者の所得増大と地域の活性化に取り組む中、JA活動への組合員・地域住民の参加と結集は重要不可欠です。そこで、組合員・利用者との結びつきの一層の強化を図るため、組合員加入促進運動を展開します。

特に、平成30年度から始まる第7次中期経営計画期間においては、次世代層を中心とした組合員加入促進運動を展開し、これまでJAとの結びつきが希薄であった層との結びつき強化を図ります。

組合員加入促進運動

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新規加入	計画	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人
	実績	2,192人	2,262人	2,354人	—
女性正組比率	計画	24.0%	24.5%	25.0%	—
	実績	24.5%	25.1%	25.7%	

～消費者モニター制度～（直売課）

消費者に支持される新鮮で安心・安全な食材を供給するために、農産物直売所『旬彩蔵』各店舗に消費者モニター制度(\*)を導入し、生産者と消費者、そして、JAが三位一体となって意見を交換し、消費者に満足していただける店舗づくりに取り組んでいます。活動内容は、生産者代表との意見交換や食に関する勉強会への参加、各旬彩蔵の巡回などで、農産物直売所や食に対する理解を深め、地元農産物の消費拡大と地域農業振興を図ります。

この制度を通じて、消費者に満足いただける販売サービスを展開し、生産者と消費者との交流を深め、地産地消の拡充に取り組んでいます。また、准組合員・員外利用者の参画意識の向上を図っていきます。

\* 消費者モニター制度とは、旬彩蔵各店舗それぞれのお客様から10人のモニターを募集・委嘱し、消費者を代表して店舗の品揃え等への意見をいただく制度です。

～ふれあい旅行～（広報課・購買課）

<広報課・購買課>

組合員を中心とした、地域の人々とのふれあい活動を通じて、組合員のニーズへの対応、組織基盤の強化ならびに地域との密着を図ることを目的として、生活文化面で実施された親睦旅行に対して、1事業年度お一人様1回に限り、5,000円を助成しています。

支店が企画する旅行に参加されるメンバーが固定化した面もあり、アイデアと工夫を凝らした企画で、新たなJAファンの獲得に繋げていきます。

ふれあい旅行助成額

(単位：千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
計画	15,000	15,000	15,000	15,000
実績	10,565	8,594	7,625	—

<金融推進課・生活福祉課>

総合事業を展開する地域密着の組織として、取り扱う事業を生かして組合員・地域との絆を深めながら社会貢献を果たすことを目的として、体が不自由になり旅行を諦めていた方を対象に、介護ヘルパーが帯同する日帰り旅行「介護ヘルパー付き安心旅行」を実施しています。参加者やその家族からも好評で、今後も継続していきます。

介護ヘルパー付き安心旅行

	実施日	行先	参加者数
平成27年度	5/26・27	鳥取	94人
平成28年度	9/26・27	大阪	92人
平成29年度	5/29・30	神戸	93人

